

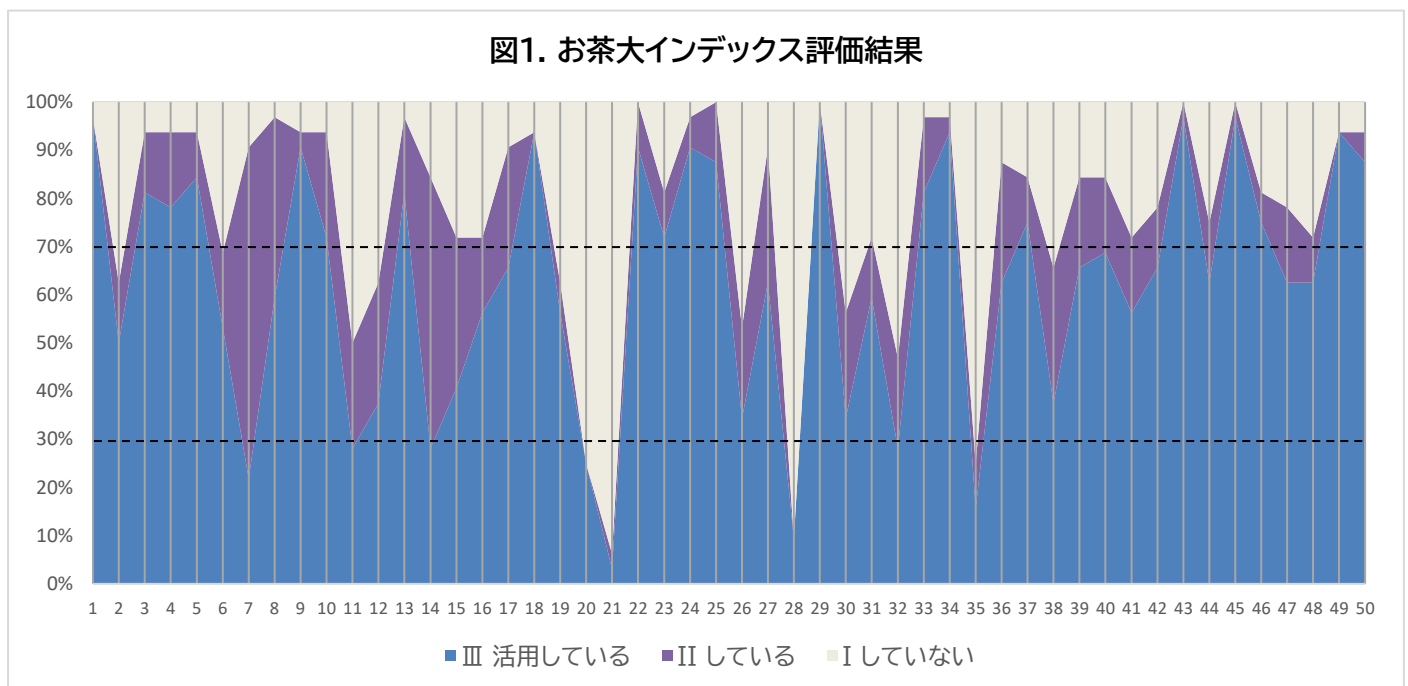
# 改訂版「お茶大インデックス」(雇用環境整備指標)を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2025 年度結果

改訂版「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日:	2026年3月24日(火)~2026年4月30日(木)
調査方法:	Excelで回答可能な改訂版「お茶大インデックス」をメールにて送付し、Googleフォームを用いて評価結果と活用方法についてのアンケート調査を実施。
配布機関:	女性研究者支援モデル育成事業・女性研究者養成システム改革加速事業・女性研究者研究活動支援事業採択機関、およびダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ女性研究者研究活動支援事業採択機関のうち連絡が可能であった106機関
回収数:	31機関(回収率29.2%)※本学を除く

## 改訂版「お茶大インデックス」評価結果:32機関(本学含む)の回答割合と特徴

2025年度の評価対象は32機関(本学含む)であり、各機関の回答をもとに50項目に関する3段階評価(I:していない/II:している/III:活用している)の割合を算出した。その集計結果をもとに、全体傾向を可視化した図1を作成した。



32機関における活用度の高い取組(『Ⅲ.活用している』と回答した機関が70%以上の項目)、低い取組(『Ⅰ.していない』と回答した機関が70%以上の項目)は以下の通り。(カッコはインデックス番号を示す)

## 図2. 活用度の高い取組および実施度の低い取組

### 活用度の高い取組 (『Ⅲ.活用している』の回答割合が70%以上)

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| (1) 女性研究者を支援する組織(本部、室、センター、部門など)の設置 | (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知・促進                   |
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うための制度や仕組みの導入      | (18) 保育施設(一時保育含む)やベビーシッター手配のための支援(経費支援・利用補助券配布含む) |
| (4) 客観的に業績を評価する制度や仕組みの導入            | (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入(時短勤務、在宅勤務など)               |
| (5) 女性を積極的に採用する制度や仕組みの導入            | (23) 育児期における職務軽減制度(非常勤講師配置制度、代替要員配置制度含む)の導入       |
| (9) 女性研究者を支援するための予算の配分              |   |
| (10) 業務を効率化するための取組                  |   |

- |  |   |
|--|---|
| (24) 在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備（ネット対応、TV・WEB 会議等）         | (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域とのネットワーク連携、コンソーシアム設置 |
| (25) 次世代育成支援対策行動計画や女性活躍推進対策行動計画、一般事業主行動計画の機関内外への周知 | (43) 機関内向け研究者支援に関わる情報発信（メール・広報誌・掲示・WEB）             |
| (29) 研究者を支援するための研究補助者（支援員）の配置                      | (45) ハラスメントを防止するための取組                               |
| (33) 研究者支援の取組状況や成果を発信するためのホームページの設置                | (46) 男性向け子育て・介護支援に関する意識啓発                           |
| (34) 子育てや介護に関わる手続きや利用可能な支援を紹介するための冊子（WEB での紹介含む）作成 | (49) ダイバーシティ&インクルージョンを理解するための意識啓発                   |
|  | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発                        |

#### 実施度の低い取組（『I.していない』の回答割合が70%以上）

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| (20) 学童保育施設の設置（期間限定開設、他機関との連携も可）      | (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度導入                 |
| (21) 子育てを支援するための機関内宿泊施設の整備（他機関との連携も可） | (35) 女性研究者を支援（研究補助、事務補助、子育て補助など）するための人材（人財）バンク構築 |

活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答割合が70%以上）を示した項目は、「1. 全学的な支援体制（組織・勤務体制（心おきなく帰宅できる体制）」におけるインデックス番号(1)、(3)、(4)、(5)、(9)、(10)、(13)の7項目、「2. 女性研究者支援（子育て支援・研究教育支援）」におけるインデックス番号(18)、(22)、(23)、(24)、(25)、(29)の6項目、「3. 情報支援（情報支援とネットワーク構築）」におけるインデックス番号(33)、(34)、(37)の3項目および「4. 意識啓発（次世代育成の取組・意識啓発の取組）」におけるインデックス番号(43)、(45)、(46)、(49)、(50)の5項目があり、計21項目となった。

実施度の低い取組（『I.していない』の回答割合が70%以上）を示した項目は、「2. 女性研究者支援（子育て支援・研究教育支援）」におけるインデックス番号(20)、(21)、(28)の3項目および「3. 情報支援（情報支援とネットワーク構築）」におけるインデックス番号(35)の1項目があり、計4項目となった。

#### 活用度の高い取組の傾向

2025年度に「Ⅲ.活用している」と回答した機関が70%以上に達した項目は21項目であり、前年度（2024年度）の19項目から2項目増加した。前年度から継続して高い活用度を示した項目として、「女性研究者支援組織の設置(1)」「女性研究者支援予算の配分(9)」「男性の育児休業取得促進(13)」「柔軟な勤務体制の導入(22)」「職務軽減制度の導入(23)」「研究補助者の配置(29)」「ホームページ設置(33)」「ネットワーク連携(37)」「ハラスメント防止(45)」「男性向け子育て・介護支援の啓発(46)」「ダイバーシティ&インクルージョンの啓発(49)」「ワーク・ライフ・バランス啓発(50)」などが挙げられる。

一方で、前年度には活用度の高い取組に含まれていなかった「客観的に業績を評価する制度や仕組みの導入(4)」および「在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備(24)」が新たに加わった。また、「公正で透明性の高い公募制度の導入(3)」についても引き続き高い活用度を維持している。特に、以下の傾向が顕著である。

##### a) 公正な人事・評価制度の定着

「公正で透明性の高い公募制度の導入(3)」や「客観的に業績を評価する制度や仕組みの導入(4)」が活用度の高い項目に位置づけられており、人材採用や評価における公平性・透明性を重視する取組が広く定着していることがうかがえる。

##### b) 柔軟な働き方支援の拡充

「柔軟な勤務体制の導入(22)」「職務軽減制度の導入(23)」に加え、「在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備(24)」が高活用項目に加わったことから、育児・介護と研究活動の両立を支援する環境整備がさらに進展していることが示された。

### c) 情報発信・意識啓発の充実

「研究者支援の取組状況や成果を発信するホームページの設置(33)」「研究者支援に関わる情報発信(43)」に加え、「ハラスメント防止(45)」「男性向け子育て・介護支援の啓発(46)」「ダイバーシティ&インクルージョンの啓発(49)」「ワーク・ライフ・バランス啓発(50)」などが引き続き高い活用率を示した。制度整備のみならず、組織文化の醸成や意識改革を重視する取組が広く浸透していることがうかがえる。

### d) 子育て支援体制の定着

「保育施設・ベビーシッター支援(18)」「育児期における柔軟な勤務体制(22)」「職務軽減制度(23)」などが引き続き高い活用率を示しており、研究者のライフイベントを支援する制度が多くの機関で定着していることが確認された。

## 実施度の低い取組の傾向

2025年度に「I.していない」と回答した機関が70%以上に達した項目は4項目であり、前年度の3項目から1項目増加した。

実施度の低い項目としては、前年度に引き続き「学童保育施設の設置(20)」「子育てを支援するための機関内宿泊施設の整備(21)」「学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度導入(28)」が挙げられた。これらは施設整備や継続的な財源確保を必要とする取組であり、多くの機関にとって導入のハードルが高い状況が継続していると考えられる。

さらに、2025年度は「女性研究者を支援するための人材(人財)バンク構築(35)」が新たに低実施項目として加わった。研究補助や事務補助、育児支援等を担う人材の確保・登録・運用には継続的な人的・財政的資源が必要であり、多くの機関で制度構築が十分に進んでいないことが示唆される。

特に、「学童保育施設(20)」や「宿泊施設(21)」については、施設整備や維持管理に係るコスト負担が大きく、単独機関での対応が難しいことから、地域や他機関との連携を含めた支援体制の構築が今後の課題である。また、「育児奨学金制度(28)」についても、学生・大学院生を対象とした支援制度として重要性が高まる一方で、制度設計や財源確保の面で課題が残されている。

## 総括

2025年度の「お茶大インデックス」調査では、活用度の高い取組として、女性研究者支援組織の設置や予算配分といった制度的基盤の整備に加え、公正な公募制度や客観的な業績評価制度の導入など、公平性・透明性を重視した人事・評価制度が広く定着していることが確認された。また、育児期における柔軟な勤務体制や職務軽減制度、在宅勤務環境の整備など、研究活動と家庭生活の両立を支援する取組も高い活用率を示しており、働き方改革に向けた取組が着実に浸透していることがうかがえる。

さらに、研究者支援に関する情報発信やネットワーク連携、ダイバーシティ&インクルージョンの推進、ハラスメント防止、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発なども引き続き高い活用率を示した。これらの結果から、多くの教育研究機関において、研究環境整備の重点が制度や仕組みの整備にとどまらず、組織文化や意識改革を通じた持続的な環境改善へと広がっていることが示された。

一方で、学童保育施設や機関内宿泊施設の整備、学生・大学院生を対象とした育児奨学金制度、人材バンクの構築といった取組については依然として実施率が低い状況が続いている。これらの取組は施設整備費や運営経費、人材確保など多くの資源を必要とするため、個々の機関のみで対応することが難しい側面がある。そのため、今後は地域自治体や近隣機関との連携、既存資源の共同利用、外部資金の活用など、多様な方法による支援体制の構築が求められる。

以上より、2025年度調査では、多くの教育研究機関において女性研究者支援およびダイバーシティ推進の取組が着実に定着・発展していることが確認された。今後は、制度や意識啓発を通じて形成された基盤を活かしながら、施設整備や人的支援など実効性の高い支援施策の充実を図ることが期待される。

## 改訂版「お茶大インデックス」2025年度評価結果 総合得点一覧

表1は、2025年度「お茶大インデックス」の評価結果を総合得点の降順に示したものである。総合得点の平均点は70.1点であり、前回調査時と比較して1.8点上昇した。また、最高点は92点(前回比1点増)、最低点は40点(同12点増)となっている。これより、多くの機関において雇用環境整備に関する取組が着実に進展しており、特に評価の低かった機関における改善が進んだことで、機関間格差の縮小が示唆される結果となった。

表1. 2025年度「お茶大インデックス」評価結果 (総合得点降順)

ID	「お茶大インデックス」カテゴリー別得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援とネットワーク構築	次世代育成の取組	意識啓発の取組
007	92	17	10	12	21	8	8	16
045	83	16	8	10	16	9	8	16
017	82	18	11	6	17	11	5	14
047	82	17	10	8	15	9	8	15
032	81	15	9	8	18	12	4	15
033	80	15	8	10	16	8	8	15
074	80	14	8	9	18	8	8	15
051	80	15	10	6	15	10	8	16
086	80	18	4	10	17	10	5	16
080	80	15	9	5	20	9	8	14
056	79	13	12	7	14	9	8	16
090	78	17	8	8	18	9	8	10
049	76	16	10	6	16	8	4	16
025	76	14	7	8	17	10	7	13
お茶の水女子大学	75	15	6	5	17	12	8	12
035	74	17	8	6	16	5	8	14
087	70	13	7	4	18	6	8	14
042	70	15	6	6	11	10	8	14
077	69	13	6	4	15	8	8	15
083	69	17	7	5	9	8	8	15
069	68	14	5	5	15	11	3	15
061	68	10	11	6	16	6	4	15
067	63	14	11	8	12	6	3	9
088	62	11	7	6	11	7	8	12
003	62	12	6	3	17	8	2	14
022	61	7	7	10	14	9	0	14
094	60	14	6	6	10	7	5	12
034	54	15	6	6	10	10	0	7
002	52	12	7	4	12	4	0	13
089	48	13	3	5	12	6	0	9
059	48	11	3	2	8	6	8	10
093	40	7	3	4	11	4	6	5

自己評価結果は「機関名を表示しない」ことを条件に本学に提出いただいているため、機関名の表示は本学のみとし、その他の機関は全てID表示としている。本調査を実施するにあたり、31機関の教育研究機関の皆様にご協力を賜った。心より感謝の意を表す。